

基礎看護学実習 I 1単位(45時間)

基礎看護学実習 I—1 (15 時間/45 時間)

目的: 健康障害をもつ対象の生活の仕方や気持ちを知る

目標

目 標	行 動 目 標	実 習 内 容
1. 対象がどのような24時間の生活を送っているか観察することができる	1) 対象の生活が、健康な時(入院前)と比べて、何が不自由か述べることができる。 2) 対象の24時間の過ごし方を述べることができる。	日常生活の見学 ・生活環境 ・清潔の保持 ・食事
2. 対象がどのような思いで過ごしているか感じとることができる	1) 対象の言動の事実を述べるができる。 2) 対象の言動や状況に我が身を置き換えることができる。	・排泄 ・運動 ・休息 コミュニケーション技術の活用

基礎看護学実習 I—2 (30 時間/45 時間)

目的: 特殊な生活過程を送っている人の生活を観察し、対象にあわせた日常生活援助を実施する。

目標

目 標	行 動 目 標	実 習 内 容
1) 対象の24時間の生活を観察し、援助の必要性を考える	(1) 対象の発達段階の特徴(身体的・精神的・社会的)を述べる ことができる (2) 健康障害が対象の生活にどのように影響しているか述べる ことができる (3) 対象の24時間の生活を視点を使って観察することができる (4) 対象がどのような思いで過ごしているか、述べる ことができる (5) 対象に応じた援助の目的を述べる ことができる (6) 援助の際の予測される危険を述べる ことができる	日常生活の観察 ・12の過程の活用 ・健康状態の観察 ・コミュニケーション技術 の活用
2) 対象に応じた日常生活援助を実施する	(1) 対象にあわせた応用の仕方を述べる ことができる (手段・人数・物品・タイミングなど) (2) 対象の安全・安楽を意識して日常生活の援助を行 うことができる (3) 対象の思いや状況を大切に した関わりができる (4) 実施後、援助の目的が達成 できたか振り返ることができる	日常生活の援助 ・バイタルサインの測定 ・スタンダードプリコーショ ンの実施 ・生活環境を整える ・清潔・衣の援助 ・活動の援助 ・休息の援助 ・食の援助 ・排泄の援助

基礎看護学実習Ⅱ 2単位(90時間)

目的

受持患者の看護を通して、看護過程展開の一連を理解する

目標

目標	行動目標	実習内容
<p>1. 受持ち患者の看護の必要性を理解する</p>	<p>1) 対象に必要な情報収集の方法がわかる 2) 看護に必要な情報を対象の事実の中からすくいあげることができる 3) 対象を捉えるために、体と心と社会関係、時の流れを重ねて考えることができる 4) 発達段階・健康障害の種類・健康の段階・生活過程の特徴から、対象の特性を考えることができる 5) 生物体の必要条件を考えることができる 6) 対象の言動から対象がどのような考えや思っているか予測し、その人の思いを感じとることができる 7) 対象の看護上の問題を考えることができる 8) 対象の看護計画の立案の方法がわかる</p>	<p>受持ち患者の看護を指導者と共に、看護過程展開モデルに沿って行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視点をを用いた観察 (12の過程・日常生活力アセスメント) ・全体像モデルの活用 ・身体面・精神面・社会関係に関する事実のキーワード化 ・立体像モデルの活用 ・看護上の問題を探る視点の活用 ・看護計画立案
<p>2. 立案した看護計画に沿って看護を実践し、看護の評価方法がわかる</p>	<p>9) 対象の状況にあわせて、看護計画を安全・安楽に実施することができる</p> <p>10) 看護の評価方法がわかる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・対象を尊重したコミュニケーション ・バイタルサインの観察 ・生活環境を整える ・清潔・衣の援助 ・活動の援助 ・休息の援助 ・食の援助 ・排泄の援助 ・スタンダードプリコーション ・治療・検査・与薬時の看護 ・実施した看護の評価 ・看護過程分析表(プロセスレコード)の活用

地域・在宅看護論実習 2単位(90時間)

目的

地域で暮らす生活者が望む生活支援のあり方を理解し、対象に応じた看護を実践できる基礎的能力を養う

目標

目標	行動目標	実習内容
1. 地域で暮らす対象の看護過程を展開する	1) 在宅で療養する対象の日常生活状況・療養環境について情報収集ができる 2) 在宅で療養する対象の健康状態の経過について情報収集ができる 3) 療養者を支える家族の生活状況・健康状態・介護状況について情報収集ができる 4) 活用している社会資源が対象とどのような意味があるのかを述べるができる 5) 在宅で療養する対象の情報の判断・分析ができる 6) 在宅で療養する対象の看護上の問題を明確にできる 7) 対象が望む生活の実現を目指した看護計画を立案・修正ができる 8) 前回の訪問状況を踏まえた訪問目的(看護目標)を述べるができる 9) 計画立案した看護援助の一部を指導のもと安全に実施することができる 10) 療養者と家族がその人らしく生活できるよう支援している事実を述べるができる 11) 訪問看護師による療養者と家族への関わりの意味を述べるができる 12) 実施した看護を対象の生活全体を視野に入れた評価ができる	(1) 12の視点に基づいた生活者としての日常生活動作(ADL・IADL)の把握 (2) 地域・在宅看護における住環境・地域環境の把握 (3) 介護状況・家庭における家族の役割 (4) 在宅療養に対するニーズの把握 ①家族全体のニーズを捉える (5) 社会資源(フォーマル・インフォーマル)の活用状況と必要性の把握 ①訪問看護導入の目的と経過 ②その他社会資源の利用状況と経過 ③生活を支える制度・支援体制 ・介護保険 ・医療保険 ・障害者総合支援法 ・自治体で提供するサービス (6) 在宅における基本技術 ①コミュニケーション技術 ②生活の場におけるマナー (7) 対象にあった日常生活援助の実践と工夫 (8) 生活を送りながらの医療設備・医療処置の方法と工夫 (9) 家族への看護 (10) 意思決定支援 (11) 自立・自律を促す支援 (12) 多様なケアニーズに対する看護 ①予防的看護 ②リハビリテーション看護 ③終末期における看護 など (13) 生活を支えるための多職種連携・協働 ①介護支援専門員 ②訪問リハビリ ③担当者会議・ケア会議など 多職種連携の実際 (14) 医療連携室の役割と機能とその実際 ①医療ソーシャルワーカー ②在宅支援コーディネーター (15) 地域包括支援センターの活動の実際
2. 地域・在宅看護における訪問看護師の役割を理解する	1) 地域・在宅看護と院内看護の違いを述べるができる 2) 地域・在宅看護における訪問看護師の役割について述べるができる 3) 地域・在宅看護に関わる多職種連携・協働の必要性を述べるができる	(9) 家族への看護 (10) 意思決定支援 (11) 自立・自律を促す支援 (12) 多様なケアニーズに対する看護 ①予防的看護 ②リハビリテーション看護 ③終末期における看護 など (13) 生活を支えるための多職種連携・協働 ①介護支援専門員 ②訪問リハビリ ③担当者会議・ケア会議など 多職種連携の実際 (14) 医療連携室の役割と機能とその実際 ①医療ソーシャルワーカー ②在宅支援コーディネーター (15) 地域包括支援センターの活動の実際
3. 地域・在宅看護における関係機関・職種との連携およびマネジメント機能について理解する(多職種連携)	1) 地域・在宅看護に関わる多職種の役割を述べるができる 2) 地域・在宅療養を支援するための地域医療連携室の役割を述べるができる 3) 地域包括支援センターの役割と機能を述べるができる	(13) 生活を支えるための多職種連携・協働 ①介護支援専門員 ②訪問リハビリ ③担当者会議・ケア会議など 多職種連携の実際 (14) 医療連携室の役割と機能とその実際 ①医療ソーシャルワーカー ②在宅支援コーディネーター (15) 地域包括支援センターの活動の実際

成人・老年看護学実習 I 2単位(90時間)

目的

周手術期及び、健康状態の急激な変化があり、生体がその変化に対応するためにさまざまな反応を起している時期の対象の特性を理解し、対象に応じた看護を展開する

目標

目 標	行 動 目 標	実 習 内 容
1. 急性期にある対象の看護過程を展開する	1) 変化しやすく合併症を起こしやすい対象の情報を収集することができる 2) 変化しやすく合併症を起こしやすい対象の情報の判断・分析ができる 3) 生体の変化が及ぼす身体的・精神的・社会的状態を理解することができる 4) 対象に起こりうる合併症を把握することができる 5) 変化しやすく合併症を起こしやすい対象の看護上の問題が明確にできる 6) 回復の促進・合併症を視野に入れた対象の看護計画の立案・修正ができる 7) 苦痛を緩和しながら回復に向けた援助ができる 8) 悪化の予防に向けた援助ができる 9) 家族の不安の緩和に向けた配慮ができる 10) 対象・家族を支えるチーム医療の連携の必要性がわかる 11) 安全・安楽に配慮した援助ができる 12) 実施した看護を評価することができる	(1) 急激な身体侵襲を受ける患者の看護 ① 生体侵襲と生体反応の把握 (2) 術前の看護 ① 全身状態の予備力の把握 ・主要臓器の機能状態の把握 ・栄養状態の把握 ② 術前処置 ③ 術前訓練 (3) 術後の看護 ① 回復促進のための援助 ・早期離床 ・呼吸管理 ・循環管理 ・栄養管理 ・疼痛管理 ② 術後合併症予防 ・循環器合併症 ・呼吸器合併症 ・術後感染症 ・精神合併症 ・消化器系合併症 ③ 自己管理に向けた援助 ・形態機能の変化への適応に対する援助 ・退院指導 (4) 精神的援助 (5) 退院後の生活に向けた援助 (6) 家族への援助 (7) 社会資源の活用 (8) 意思決定支援 (9) 多職種連携 (10) ICU・HCUIにおける看護
2. 急性期の看護を理解する	1) 急性期における対象の身体的・精神的・社会的特徴を述べることができる 2) 急性期における看護の特徴を述べる ことができる	
3. 対象に尊重した態度で接することができる	1) 対象の価値観を重んじ尊重した態度でコミュニケーションをとることができる	

成人・老年看護学実習Ⅱ 2単位(90時間)

目的

健康障害の自己管理と生活調整を長期にわたって必要とする時期の対象の特性を理解し、対象に応じた看護を展開する

目標

目標	行動目標	実 習 内 容
1. 慢性期にある対象の看護過程を展開する	1) セルフケアが必要な対象の情報を収集することができる 2) 対象のセルフケアの能力を把握することができる 3) セルフケアが必要な対象の家族のサポート力を把握することができる 4) セルフケアが必要な対象の情報の判断・分析ができる 5) セルフケアが必要な対象の看護上の問題が明確にできる 6) セルフケア確立に向けた対象の看護計画の立案・修正ができる 7) セルフケア確立に向けた援助ができる 8) 対象を支える家族に対し配慮ができる 9) 対象・家族を支えるチーム医療の連携の必要性がわかる 10) 安全・安楽に配慮した援助ができる 11) 実施した看護を評価することができる	(1)セルフマネジメントのための患者の理解 ①身体状況の予備力の把握 ②生活状況の把握 ③疾患の理解とアドヒアランス行動の把握 ④セルフケア能力の把握 (2)セルフマネジメントを促すための教育支援 ①エンパワメント ②自己効力感を高める援助 ③発達段階に合わせた指導 (アンドラゴジー、ジェロゴジー) (3)治療にともなう援助 (薬物・食事・運動) (4)精神的援助 (5)家族への援助 (6)社会資源の活用 (7)意思決定支援 (8)多職種連携 (9)外来における看護
2. 慢性期の看護を理解する	1) 慢性期における対象の身体的・精神的・社会的特徴を述べることができる 2) 慢性期における看護の特徴を述べることができる	
3. 対象に尊重した態度で接することができる	1) 対象の価値観を重んじ尊重した態度でコミュニケーションをとることができる	

成人・老年看護学実習Ⅲ 2単位(90時間)

目的

急激な健康状態の破綻から脱し、生活の再構築のために機能の維持・回復を必要とする時期の対象の特性を理解し、対象に応じた看護を展開する

目標

目標	行動目標	実 習 内 容
1. 回復・リハビリ期にある対象の看護過程を展開する	1) 身体機能の維持・回復促進が必要な対象の情報を収集することができる 2) 対象の日常生活自立度を把握することができる 3) 身体機能の維持・回復促進が必要な対象の情報の判断・分析ができる 4) 身体機能の維持・回復促進が必要な対象の看護上の問題を明確にできる 5) 対象の回復力に合わせた看護計画の立案・修正ができる 6) 身体機能の維持・回復促進に向けた援助ができる 7) 廃用症候群の予防に向けた援助ができる 8) 対象を支える家族に対し配慮ができる 9) 対象・家族を支えるチーム医療の連携の必要性がわかる 10) 安全・安楽に配慮した援助ができる 11) 実施した看護を評価することができる	(1)もてる力の把握 ①残存機能 ②日常生活力 (2)QOL・ADLの維持・拡大に向けた援助 ①もてる力の活用 ②廃用症候群予防 (3)機能障害に対する受容と適応への援助 ①自己概念の変容 ②障害受容とプロセス ③自己効力感を高める支援 ④心理的支援 (4)家族への援助 (5)社会資源の活用 (6)意思決定支援 (7)多職種連携
2. 回復・リハビリ期の看護を理解する	1) 回復・リハビリ期における対象の身体的・精神的・社会的特徴を述べる 2) 回復・リハビリ期における看護の特徴を述べる	
3. 対象に尊重した態度で接することができる	1) 対象の価値観を重んじ尊重した態度でコミュニケーションをとることができる	
4. 慢性期病院における対象の生活の再構築に必要な看護の実際を学ぶ	1) 慢性期病院における看護師の役割を述べる 2) 生活の再構築に必要な機能の維持・改善の援助方法が理解できる 3) 急性期病院との連携の実際が理解できる 4) 地域での生活を見据えた多職種との連携と協働について述べる	(1)慢性期病院の特徴と役割 (2)退院前訪問の実際 (3)生活再構築のための看護と多職種連携と協働の実際

成人・老年看護学実習Ⅳ 2単位(90時間)

目的

健康障害により身体機能に不可逆的な変化がおり、治癒困難な時期の対象の特性を理解し、対象に応じた看護を展開する

目標

目 標	行 動 目 標	実 習 内 容
1. 終末期にある対象の看護過程を展開する	1) 治癒が困難な対象の情報を収集することができる 2) 治癒が困難な対象の健康障害による苦痛を全人的に捉えることができる 3) 治癒が困難な対象の情報の判断・分析ができる 4) 治癒が困難な対象の看護上の問題が明確にできる 5) その人らしく生を全うするための看護計画の立案・修正ができる 6) 安楽な日常生活に向けた援助ができる 7) QOLを高めるための援助ができる 8) 心理過程に応じた関わりができる 9) 意思決定支援の必要性がわかる 10) 対象を支える家族へ配慮ができる 11) 対象・家族を支えるチーム医療の連携の必要性がわかる 12) 安全・安楽に配慮した援助ができる 13) 実施した看護を評価することができる	(1) その人らしく生を全うするための援助 ①尊厳の維持 ②QOLの維持 (2) 全人的苦痛の把握と緩和への援助 (3) 疼痛コントロール ①疼痛のアセスメント ②疼痛に対する治療の把握 ・癌性疼痛治療の原則 ③麻薬使用における援助 ・副作用の早期発見 ・副作用に対する援助 ④疼痛緩和への援助 (4) 不快症状への援助 (全身倦怠感・呼吸困難・便秘・悪心嘔吐・口腔内乾燥) (5) 告知・意思決定・死の受容過程に伴う精神的援助 (6) 意思決定支援 (7) 化学療法における援助 ①副作用の早期発見 ②副作用に対する援助 (8) 放射線療法における援助 ①副作用の早期発見 ②副作用に対する援助 (9) 死に行く過程における身体的変化の観察とアセスメント (10) 状態悪化に伴う二次障害の予防 (11) 家族への援助 (12) 社会資源の活用 (13) 多職種連携 (14) 緩和ケア病棟における看護
2. 終末期の看護を理解する	1) 終末期における対象の身体的・精神的・社会的特徴を述べることができる 2) 終末期における看護の特徴を述べるができる	
3. 対象に尊重した態度で接することができる	1) 対象の価値観を重んじ尊重した態度でコミュニケーションをとることができる	

成人・老年看護学実習 V 2単位(90時間)

目的

日常生活援助を多く必要とする対象の特性を理解し、対象に応じた看護を展開する

目標

目標	行動目標	実 習 内 容
1. 日常生活援助を多く必要とする対象の看護過程を展開する	1) 日常生活に援助を多く必要とする対象の情報を収集することができる 2) 日常生活に援助を多く必要とする対象の情報の判断・分析ができる 3) 日常生活に援助を多く必要とする対象の看護上の問題を明確にできる 4) その人らしく生活できるよう、もてる力に合わせた看護計画の立案・修正ができる 5) 対象の状況に応じた看護目標をあげることができる 6) QOLの維持・向上に向けた援助ができる 7) 廃用症候群の予防に向けた援助ができる 8) 対象のもてる力にはたらきかけた援助ができる 9) 対象に応じたコミュニケーションを図ることができる 10) 対象を支える家族に対し配慮ができる 11) 対象・家族を支えるチーム医療の連携の必要性がわかる 12) 安全・安楽に配慮した援助ができる 13) 実施した看護を評価することができる	(1) 生活を支える看護 ① 食生活への援助 ② 排泄への援助 ③ 清潔への援助 ④ 活動と休息への援助 (2) ADL維持・拡大に向けた援助 ① もてる力の活用 ② 廃用症候群予防 ③ 転倒・転落予防 (3) 対象に合わせたコミュニケーション (4) 家族への援助 (5) 社会資源の活用 (6) 意思決定支援 (7) 多職種連携
2. 対象に尊重した態度で接することができる	1) 対象の自尊心や価値観を大切にするかわりができる	
3. 施設で生活している対象の特徴と援助を学ぶことができる	1) 対象の生活や過ごし方を知ることができる 2) 対象の楽しみや生きがいを知ることができる 3) 対象の安全を守るための工夫について知ることができる 4) 施設内の看護師の役割を知ることができる 5) 多職種との連携の必要性を知ることができる	(1) 施設(入所・通所)の特徴と役割 (2) 介護サービスとの位置づけ (3) 家族への援助 (4) 多職種連携の実際 (施設内・施設外)

小児看護学実習 2単位(90時間)

目的

小児期にある対象とその家族の特徴を理解し、対象に応じた看護を展開することができる

目標

目 標	行 動 目 標	実 習 内 容
1. 健康な子どもへの日常生活援助ができる	1) 健康な乳幼児の成長・発達状態を理解できる 2) 健康な乳幼児の発達段階と基本的生活習慣の自立状況に合わせた援助ができる 3) 健康な乳幼児の発達段階に合わせた遊びの展開ができる	(1) 発達段階に応じたコミュニケーション (2) 成長発達状況の把握 (3) 日常生活援助 (4) 小児看護に必要な基本技術、診察時の援助 ① 乳児・幼児・学童のバイタルサインの測定 ② 乳児・幼児・学童の身体計測 ③ 診察の介助 ④ 治療・検査時の援助 (酸素吸入・吸入療法・持続点滴の管理など) (5) 発達段階・健康の段階に応じた遊びの援助 (6) 退院指導 (7) 家族への援助 (8) 多職種との連携 (9) 外来における看護
2. 小児期にある対象の回復過程に応じた援助ができる	1) 対象の発達段階の特徴(身体的・精神的・社会的)を述べる事ができる 2) 小児期にある対象の看護に必要な情報を収集できる 3) 小児期にある対象の看護に必要な情報の判断・分析ができる 4) 小児期にある対象に必要な看護上の問題を明確にできる 5) 小児期にある対象に必要な看護計画の立案・修正ができる 6) 対象に必要な看護を計画に基づいて実践できる 7) 実施した看護を評価する事ができる 8) 安全・安楽に配慮した援助ができる 9) 対象を支える家族へ配慮ができる 10) 対象・家族を支えるチーム医療の連携の必要性がわかる	
3. 小児看護における看護師の役割を理解することができる	1) 外来における看護師の役割を述べる事ができる 2) 病棟における看護師の役割を述べる事ができる	
4. 小児看護を通して、子どもがひとりの人格をもった人間であることを理解することができる	1) 子どもの気持ちを尊重した態度でコミュニケーションをとることができる 2) 子どもとの関わりを通して、自己の小児観を養うことができる	

母性看護学実習 2単位(90時間)

目的

妊婦・産婦・褥婦および新生児とその家族の特性を理解し、対象に応じた看護を展開する

目標

目標	行動目標	実習内容
1. 妊婦の身体的・心理的社会的変化の特性および援助について理解できる	1) 妊婦の身体的・心理的・社会的変化や特徴を述べるができる 2) 妊婦の健康診査の内容と方法を述べるができる 3) 妊婦に必要な保健指導の内容と特徴を述べるができる	(1) 妊娠期の看護 ① 妊婦健康診査 ② 妊婦の保健指導 ③ 妊婦の日常生活援助 ④ 妊娠に伴う異常への看護 (2) 分娩期の看護 ① 分娩経過の観察及び援助 ② 産痛緩和への援助 ③ 陣痛促進の援助 ④ 分娩直後の観察及び援助 ⑤ 家族への支援
2. 分娩の経過に合わせた援助を理解できる	1) 分娩経過の一連を述べるができる 2) 分娩時の産婦及び家族に対する援助を述べるができる	(3) 産褥期の看護 ① 産褥経過の観察 ② 母乳栄養確立への援助 ・乳汁分泌促進の援助 ・授乳援助 ③ 子宮復古促進のための援助 ④ 育児指導 ⑤ 退院後の生活指導と支援体制 ⑥ 母子・父子関係成立への援助
3. 妊婦・産婦・褥婦に対する看護過程を展開する	1) 対象の看護に必要な情報を収集することができる 2) 対象の情報の判断・分析ができる 3) 対象の看護上の問題を明確にできる 4) 対象に必要な看護計画の立案ができる 5) 対象に必要な看護を実践できる 6) 実施した看護評価することができる 7) 対象の母児を支える多職種との連携について述べるができる 8) 対象の退院後の生活や育児をイメージし、退院後の育児支援体制を考えることができる 9) 母子関係の構築や母子相互作用を強めるための援助ができる 10) 妊・産・褥婦及び新生児(胎児)に対して、安全・安楽に配慮した行動ができる	(4) 新生児及び胎児の看護 ① 新生児及び胎児の観察 ② 新生児の子宮外生活への援助 ③ 新生児の清潔援助
4. 新生児(胎児)の状態と援助内容を理解できる	1) 新生児及び胎児を観察し、情報を判断・分析することができる 2) 新生児及び胎児に必要な看護を述べるができる	
5. 母性看護のあり方を理解し、自らの母性(父性)観の発展を図る	1) 受け持った対象の看護を振り返り、母性看護のあり方を考えることができる 2) 実習を通して生命尊厳について考え、自らの母性観(父性観)を養うことができる	

精神看護学実習 2単位(90時間)

目的

精神に障害をもつ対象の特性を理解し、対象に応じた看護を展開する

目標

目標	行動目標	実習内容
1. 精神に障害をもつ対象に必要な援助ができる	1) 生育歴と発症から現在に至るまでの経過を大掴みに把握することができる 2) 対象の日常生活力についてアセスメントができる 3) 対象の情報について判断・分析ができる 4) 対象の看護上の問題を明確にすることができる 5) 対象への必要な看護計画を立案することができる 6) 対象へ必要な援助を実施することができる 7) 精神症状に対して関わることができる 8) 対象の安全を考えた行動をとることができる 9) 実施した関わりを評価することができる 10) 対象に生活の場の広がりに向けて社会資源・生活資源を考えることができる 11) 対象を支える医療チームの連携の必要性がわかる	(1) 対象の現病歴の把握 (病気、病状の受容の程度、生育歴、発達課題の達成状況、家族状況とサポート力) (2) 精神症状に伴う看護 (幻覚・妄想、不安、抑うつ、無為・自閉、拒絶、強迫) (3) 社会性の欠如に対するの援助 (4) 薬物療法に伴う看護 (作用・副作用、拒薬、誤薬) (5) 社会療法に伴う看護 (作業療法、生活技能訓練、レクリエーション療法) (6) セルフケア能力の把握と援助 (7) 社会資源の活用 (8) 精神科医療の法の変遷
2. 対象を尊重する態度がとれる	1) 対象へ関心をもった関わりができる 2) 対象の立場に立った関わりができる	(1) 患者－看護師関係 (受容、共感、傾聴、距離感)
3. 対象の安全・権利をまもる必要性を理解できる	1) 対象の安全・権利がどのように守られているか述べるができる	(1) 私物管理 (2) 離院防止 (3) 面会・通信の権利
4. 地域リハビリテーションにおける看護の役割を理解できる	1) 地域、利用者における就労継続支援事業所の役割を述べるができる 2) 就労継続支援事業所の作業内容及び利用者の取り組み状況に応じた支援のあり方を述べる ことができる 3) 医療と福祉の連携の必要性がわかる	(1) 就労継続支援事業所での 実習

統合実習 2単位(90時間)

目的

病院組織の一員として、複数患者の看護を展開できる基礎的能力を養う

目 標	行 動 目 標	実 習 内 容
1. 病院における看護管理の実際を理解する	1) 病院における看護組織の位置づけと機能を述べる ことができる	(1) 病院組織における看護部の位置づけ (2) 看護配置と方式 (3) 看護部の役割 ① 質の良い看護を提供するための取り組み (4) 看護部の教育体制
2. 病棟の看護管理の実際を理解する	1) 看護チームの一員として病棟管理の実際を述べる ことができる 2) 日々リーダーの役割を述べる ことができる 3) メンバーの役割を述べる ことができる	(1) 病棟チーム編成の実際 (2) 病棟管理者の役割 ① 病床管理(患者管理も含む) ② 病棟スタッフの教育指導 ③ 病棟における安全管理・物品管理 ④ 他部門との連絡調整 ⑤ 勤務体制と役割 (1) 日々リーダーの役割の実際 ① 業務分担の調整 ② 他チームとの連携 ③ チームメンバーへの連絡調整 ④ 他部門との連絡調整 ⑤ 課長への報告 (2) チームカンファレンスの運営 (1) メンバーの役割の実際 ① 本日の受け持ち患者の業務計画(業務の優先度の判断) ② チームメンバー間の協力・調整 ③ リーダーへの報告 ④ 次の勤務帯への申し送り ⑤ 他職種との連絡調整
3. 病院における医療安全を理解する	1) 病院における安全管理を述べる ことができる	(1) 病院の医療安全対策の実際 (2) 病院の感染対策の実際 (3) 病棟でのインシデント・アクシデント発生時の対応
4. 看護チームの一員として複数患者の看護を展開する	1) 個々の対象の優先度の高い看護上の問題を述べる ことができる 2) 個々の対象の優先度の高い看護計画を立案 できる 3) 個々の対象の日々の看護目標を立案できる 4) 複数患者の優先度を考えた行動計画を立案 できる 5) 時間調整しながら必要な看護を実施できる 6) 実施した看護を振り返ることができる 7) 適時適切な人へ報告・連絡・相談ができる	(1) 複数患者の看護展開